

2026 年度 高3英語総合 S 〈夏期英文解釈演習 2/3〉

(A)〈大阪大〉

重要語彙・語句・構文

- 1 worry about ~ ~について心配する、~を気にかける
 - 2 where to V どこで・どこに V すべきか
 - 3 send A to school A を学校に通わせる
 - 4 statistically speaking 統計的に言えば、統計上は
 - 5 matter [mætər] 重要である、問題となる
 - 6 not A as much as B A は B ほど~ではない、A よりも B のほうが~
 - 7 which adult S V どの大人が~するか
 - 8 teacher quality 教師の質、教師としての力量
 - 9 tend to V V する傾向がある、V しがちである
 - 10 vary [vɛəri] 異なる、ばらつきがある
 - 11 vary more within A than among B B の間よりも A の内部で大きく異なる
 - 12 supposedly [səpəʊzɪdli] 一般に~とされている、いわゆる
 - 13 identify [aɪdɛntɪfaɪ] ~を特定する、見極める
 - 14 in a reliable, objective way 信頼できる客観的な方法で
 - 15 ascribe A to B A を B に帰する、A は B によるものだと考える
 - 16 gift [ɡɪft] 才能、天賦の才
 - 17 mystical [mɪstɪkəl] 神秘的な、不可思議な
 - 18 revere [rɪvɪər] ~を崇敬する、深く尊敬する
 - 19 replicate [rɛplɪkɛɪt] ~を再現する、同じものを作り出す
 - 20 serve as ~ ~としての役割を果たす、~として機能する
-

構文解説

① Parents have always worried about where to send their children to school; but the school, statistically speaking, does not matter as much as which adult stands in front of their children.

[構文]前半の where to send their children to school は「疑問詞+to V」で、worry about ~ の目的語となり、「子どもをどの学校に通わせるべきか」の意味。後半では statistically speaking「統計的に言えば」が挿入され、骨格は the school does not matter as much as ~「学校は~ほど重要ではない」。which adult stands in front of their children は間接疑問節で、「どの大人

が子どもたちの前に立つか」、つまり「誰が教師として教えるか」を表す。したがって、「どの学校に通うかよりも、誰に教わるかのほうが重要である」という対比である。

② Teacher quality tends to vary more within schools — even supposedly good schools — than among schools.

[構文]骨格は Teacher quality / tends to vary / more within schools / than among schools.。more A than B の比較構造で、within schools「同じ学校の内部で」と among schools「学校間で」が対比されている。even supposedly good schools はダッシュによる挿入で、「一般によいとされている学校でさえ」の意味。したがって、「教師の質は学校ごとの差よりも、同じ学校にいる教師同士の差のほうが大きい傾向にある」となる。

③ Instead, we tend to ascribe their gifts to some mystical quality that we can recognize and revere — but not replicate.

[構文]骨格は we / tend to ascribe / their gifts / to some mystical quality. ascribe A to B「AをBに帰する」が最重要表現で、A=their gifts、B=some mystical quality。後続する that we can recognize and revere — but not replicate は some mystical quality を修飾する関係代名詞節で、that は recognize / revere / replicate の共通の目的語。したがって、「それと認め、敬うことはできるが、再現することはできない、ある種の神秘的な資質によるものと考える」となる。

④ The great teacher serves as a hero but never, ironically, as a lesson.

[構文]serve as ～「～としての役割を果たす」を用いた対比で、後半では serves が省略され、serves as a hero but never [serves] as a lesson と考える。hero と lesson の対比が重要で、優れた教師は「称賛される英雄」にはなるが、その指導法を分析・再現して他の教師が学ぶための lesson「手本・教訓」にはならない、という皮肉を表している。

(A) 下線部和訳 | 採点のポイント

① Parents have always worried about where to send their children to school[1点]

where to V「どこに・どこで V すべきか」を正確に処理し、「親は昔から、子どもをどの学校に通わせるべきかを気にかけてきた」と訳せていること。where to send ～全体が worry about の目的語になっていることがポイント。

② the school, statistically speaking, does not matter as much as which adult stands in front of their children[2点]

not A as much as B「AはBほど～ではない」という比較関係を正確に捉え、「統計的に言えば、どの学校かということは、どの大人が子どもたちの前に立つかほど重要ではない」と訳せていること。which adult ～ は間接疑問節であり、比較の方向を逆にすると大きく減点。

③ Teacher quality tends to vary more within schools ... than among schools[2点]

more A than B の比較構造と、within schools「学校内で」／among schools「学校間で」の対比を正確に把握し、「教師の質は学校間よりも同じ学校内で大きく異なる傾向がある」と訳せていること。本文の主張を支える重要部分である。

④ even supposedly good schools[1点]

ダッシュ内の挿入を正しく処理し、supposedly を「一般によいとされている」と訳せていること。「おそらくよい学校」とすると、本来の「そう思われている・そう評価されている」というニュアンスが失われるため減点。

⑤ we tend to ascribe their gifts to some mystical quality[1点]

ascribe A to B「AをBに帰する」を理解し、「彼らの才能を、ある神秘的な資質によるものとする」と訳せていること。A = their gifts、B = some mystical quality の関係を逆転させないことが重要。

⑥ that we can recognize and revere — but not replicate[1点]

that の先行詞が some mystical quality であり、recognize / revere / replicate の共通目的語であることを捉え、「それと認め、敬うことはできるが、再現することはできない資質」と訳せていること。but not replicate では we can が省略されている。

⑦ The great teacher serves as a hero but never, ironically, as a lesson[2点]

serve as A but never (serve) as B という対比を正確に捉え、「優れた教師は英雄としては機能するが、皮肉にも、教訓・手本としては決して機能しない」と訳せていること。特に lesson を単純に「授業」とせず、「他の教師がそこから学ぶことのできる手本・教訓」と文脈に即して処理することが重要。

採点目安:10点満点

9～10点:not as much as / more within A than among B / ascribe A to B / hero と lesson の対比をすべて正確に把握し、全体を自然な日本語として訳せている。

7～8点:文全体の骨格と対比関係は正確だが、supposedly / revere / replicate / lesson など、一部の語句に軽微な不正確さがある。

5～6点:大意は取れているが、比較構文／within と among の対比／ascribe A to B／hero と lesson の対比のいずれかに重要な誤りがある。

4 点以下:比較関係や ascribe A to B の構造を捉えられず、「学校間と学校内の教師の質」「優れた教師を称賛すること、その指導から学ぶこと」という本文の中心的な対比が崩れている。

最重要採点ポイントは、①「どの学校か」より「誰が教えるか」が重要、②教師の質は「学校間」より「学校内」で大きく異なる、③優れた教師を「英雄」として称賛するだけで「他者が学べる手本」にはしていない、という三つの対比を正確に捉えられているかどうかです。

(A)全訳

親は昔から、子どもをどの学校に通わせるべきかを気にかけてきた。しかし統計的に言えば、どの学校に通うかは、どの大人が子どもたちの前に立って教えるかほど重要ではない。教師の質は、学校間で異なる以上に、同じ学校の内部で——一般によいとされている学校でさえ——大きく異なる傾向がある。しかし私たちはこれまで、優れた教師を信頼できる客観的な方法で見極めたことがない。その代わりに私たちは、優れた教師の才能を、それと認め、敬うことはできても、再現することはできない、ある種の神秘的な資質によるものだと考えがちである。優れた教師は尊敬すべき英雄としての役割は果たすが、皮肉なことに、私たちがそこから学ぶべき手本となることは決してない。

(B)〈京都大予想問題〉

The Hidden Intelligence of Teaching

重要語彙・語句・構文

- ☐1 accomplished [ə'kʌmplɪʃt] 熟達した、優れた
- ☐2 possess [pə'zɛs] ~を所有する、~を備えている
- ☐3 impressive [ɪm'presɪv] 印象的な、見事な
- ☐4 extensive [ɪk'stɛnsɪv] 広範囲にわたる、豊富な
- ☐5 A though S V SはVではあるがA、Aではあるけれども
- ☐6 clarity [klə'reɪtɪ] 明瞭さ、分かりやすさ
- ☐7 with which S V それをもってSがVする、その~で
- ☐8 not A, nor even B, but rather C Aでもなく、Bできえなく、むしろC
- ☐9 imperceptible [ɪm'pɜ:səptəbl] ほとんど知覚できない、気づかれないほどの
- ☐10 hesitation [hə'zɪtəɪʃən] ためらい、戸惑い
- ☐11 observe [əb'zɜ:v] ~を観察する、~に気づく
- ☐12 sense that S V SがVであることを感じ取る
- ☐13 adequate for ~ ~にとって十分な、適切な

- 14 leave O C O を C の状態にしておく、O を C の状態にする
 - 15 leave another confused 別の生徒を混乱した状態にする
 - 16 resist [rizist] ～に抵抗する、～をこらえる
 - 17 the temptation to V V したいという誘惑・衝動
 - 18 what has already been said すでに言われたこと
 - 19 alter the direction of ～ ～の方向を変える
 - 20 It is not in A ... but in B that S V S が V するのは A においてではなく B においてである
-

太字部分の構文解説

It is not in the knowledge that accomplished teachers possess, impressive and extensive though it may be, nor even in the clarity with which they explain difficult ideas, but rather in those almost imperceptible moments, when, observing a hesitation that has not yet become a question, sensing that an explanation perfectly adequate for one student has left another confused, and resisting the temptation simply to repeat what has already been said, they quietly alter the direction of the lesson, that the intelligence essential to excellent teaching most clearly reveals itself.

[構文]文全体は非常に長いが、中心となる骨格は It is not in A, nor even in B, but rather in C, that S V. という強調構文。「S が V するのは、A においてでも、B においてでさえなく、むしろ C においてである」という構造である。A = the knowledge that accomplished teachers possess、B = the clarity with which they explain difficult ideas、C = those almost imperceptible moments ...。最後の that 以下の the intelligence essential to excellent teaching most clearly reveals itself が強調構文の本体で、「優れた指導に不可欠な知性が最も明確に姿を現す」という意味になる。

[構文]A の内部では that accomplished teachers possess が the knowledge を修飾し、impressive and extensive though it may be は「その知識がどれほど見事で広範なものであろうとも」という譲歩。これは 形容詞 + though + S + V の語順で、通常の though it may be impressive and extensive から形容詞が前に出た形である。B の the clarity with which they explain difficult ideas は「彼らが難しい考えを説明する際の明瞭さ」で、with which は前置詞 + 関係代名詞となっている。

[構文]C の中心は those almost imperceptible moments, when ... they quietly alter the direction of the lesson。「彼らが授業の方向を静かに変え

る、ほとんど気づかれないような瞬間」を表す。when 節内部では observing ～, sensing ～, and resisting ～ の3つの現在分詞が並列され、意味上の主語はいずれも they = accomplished teachers。つまり「生徒の戸惑いに気づき」「ある説明が別の生徒を混乱させたことを感じ取り」「同じ説明を繰り返したいという誘惑をこらえながら」という三つの状況が、they quietly alter ～ にかかっている。[構文]さらに a hesitation that has not yet become a question は「まだ質問として表に出ていない戸惑い」、an explanation perfectly adequate for one student has left another confused は leave O C「OをCの状態にする」を含み、「ある生徒には十分適切な説明が、別の生徒を混乱させてしまった」。what has already been said の what は先行詞を含む関係代名詞で「すでに言われたこと」。したがってこの一文は、優れた教師の知性は、知識量や説明の明快さそのものではなく、生徒の微妙な反応を察知し、その場で授業を修正する瞬間にこそ現れる、ということを強調している。

(B) 下線部和訳 | 採点のポイント

① It is not in A, nor even in B, but rather in C, that ～ [2点]

文全体を支配する強調構文を正確に把握し、「～が最も明確に現れるのは、Aにおいてでも、Bにおいてでさえなく、むしろCにおいてである」と訳せていること。長い挿入部分に惑わされず、It is ～ that ... の対応を見抜けるかが最重要。

② the knowledge that accomplished teachers possess, impressive and extensive though it may be [1点]

that が the knowledge を修飾し、impressive and extensive though it may be が譲歩を表すことを捉え、「優れた教師がもつ知識は、どれほど見事で広範なものであろうとも」と訳せていること。

③ nor even in the clarity with which they explain difficult ideas [1点]

the clarity ← with which ～ の修飾関係を把握し、「彼らが難しい考えを説明する際の明瞭さにおいてでさえない」と処理できていること。with which の前置詞を無視して意味を崩すと減点。

④ but rather in those almost imperceptible moments, when ～ [1点]
not A, nor B, but rather C の対比を保ち、those almost imperceptible moments を「ほとんど気づかれないような瞬間」と訳せていること。when 以下が moments の具体的内容を説明していることも重要。

⑤ observing ～, sensing ～, and resisting ～ [2点]

3つの現在分詞が並列され、いずれも they を意味上の主語とすることを捉えること。「まだ質問になっていない戸惑いに気づき、ある説明が別の生徒を混乱させたこと

を感じ取り、すでに述べたことを単に繰り返したいという誘惑をこらえながら」などと処理できていること。

⑥ an explanation perfectly adequate for one student has left another confused[1 点]

leave O C「O を C の状態にする」を正確に把握し、「ある生徒には十分に適切な説明が、別の生徒を混乱させてしまった」と訳せていること。another = another student の省略も補って訳せるとよい。

⑦ the intelligence essential to excellent teaching most clearly reveals itself[2 点]

強調構文の that 節の中心を正確に捉え、essential to ～「～に不可欠な」／reveal itself「姿を現す」を踏まえ、「優れた指導に不可欠な知性が最も明確に姿を現す」と訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点:強調構文の大枠、though の譲歩、with which、3 つの分詞の並列、leave O C をすべて正確に把握し、長い一文を自然な日本語として再構成できている。

7～8 点:強調構文の骨格と全体の意味は正確だが、分詞句や with which / adequate / imperceptible などの一部に軽微な不正確さがある。

5～6 点:大意は取れているが、It is ～ that ... の強調構文／though の譲歩／3 つの V-ing の並列／leave O C のいずれかに重要な誤りがある。

4 点以下:長い挿入部分に惑わされ、It is not in A, nor even in B, but rather in C, that S V という文全体の中心構造を捉えられていない。

最重要採点ポイントは、数多くのカンマや挿入表現に惑わされず、文全体を「It is not in A, nor even in B, but rather in C, that S V」という一つの強調構文として見抜けるかどうかです。

(B)全訳

教えるという行為に隠された知性

優れた教師がもっている知識は、たとえそれがどれほど見事で広範なものであろうとも、優れた指導に不可欠な知性が最も明確に姿を現す場ではない。また、その知性が最も明確に現れるのは、彼らが難しい考えを説明する際の明瞭さにおいてでさえない。むしろそれが最も明確に姿を現すのは、まだ質問として表に出ていない生徒の戸惑いに気づき、ある生徒には十分に適切な説明が別の生徒を混乱させてしまったことを感じ取り、すでに述べたことをただ繰り返したいという誘惑をこらえながら、教師が静かに授業の方向を変える、ほとんど気づかれないような瞬間においてなのである。